

## 幸せリーグ

×

## 日本での指標づくり・ケース2

市と市民が  
協働してつくる  
「幸せのモノサシ」

愛知県

## 長久手市

名古屋市東部と隣接する長久手市は、天下人への道をめざす羽柴秀吉と徳川家康が直接対決した「小牧・長久手の戦い」の舞台として、近年では2005年「愛・地球博」のメイン会場として知られた地である。都市化が進む市西部と、自然環境が豊かに残る市東部という二面を内包する長久手市は、「幸せリーグ」設立時からのメンバーでもある。行政と市民が協働する「ながくて幸せのモノサシづくり」。

取材・執筆／加藤しのぶ 撮影／喜多章

長久手市が今注目されているのは、東洋経済「住みよさランキング2014」全国4位という「都市力」の高さである。

データでその現況をみれば、高齢化率が愛知県下で最も低く（15・2％、2014年現在）、全国で最も平均年齢が若く（38・9歳、2014年現在）、全国トップクラスの人口増加率となっており、恵まれた生活環境にあるといえる都市である。

2012年の市制施行により長久手市となったまちの初代市長吉田一平氏による「地方創生」は細かな政策を打つ。オリジナルの尺度「モノサシ」を、市民と市職員が共に作っていききたい——文言には、文字通り「試行錯誤」する市側の姿がにじむ。この取り組みを、当初から市民とともに進めるべきものと明確に位置付けていたからこそ「生みの苦しみ」でもあっただろう。

手始めに関西大学の草郷孝好教授（2頁）「対談」参照）を招き講演会を開催、まちづくりのワークショップを行った。そこで出された市民の意見に「手ごたえを感じた」というのは、市の事務局担当者の門前健さんだ。「専門家だけで作るのではなく、最初から市民の方々にも積極的に入っていただくことに方向転換しました」

ワークショップに参加した市民の中から有志10人、市職員11人の協働チームを結成、「ながくて幸せ実感調査隊」と名付けられた。

市民の意見が  
発信されたアンケート

「ながくて幸せのモノサシ」は、「長久手のまちが、着実に健康、活き活き、幸せに生活する日本一の福祉のまちに向かっているかどうかを確かめていくための『道具』であり尺度である」という。とはいえ、目的は「道具」づくりではない。大切なのはこれを使って「まちや地域の幸せ」を具体的に示すこと、まちづくりに向けて住民が自ら

ち出さず、「目標」だけを謳うユニークなものだ。

まちづくりの目標は、「一人ひとりの幸せ感が高い『日本一の福祉のまち』。それは「誰もが地域で役割を担い、活躍し、生きがいをもって楽しく過ごすことができる『たつせのある』（市の造語。『立つ瀬がない』の対義語として用いる）まちづくり」を意味しており、そのためにさまざまな市民主導型のプロジェクトが行われている。「幸せリーグ」の参加、「ながくて幸せのモノサシづくり」の取り組みも、そうしたプロジェクトの一環として進めら

れた。

「市民目線」で測る  
モノサシづくり

「職員も悩みながら試行錯誤中……『生み出せる喜び』を感じませんか？」——これは、市の広報の2013年8月号に掲載された、呼びかけの冒頭である。

人口減少と少子高齢化が進む「いつか下りていく時代」に備え、今から「新しいまちのかたち」をつくりたい。そのためにも市民と共有できる長久手市

## ながくて幸せ実感アンケートの例

調査票から、暮らしや居住地域に関する質問の一部を抜粋した。

あなたの暮らしや  
お住まいの  
地域のことについて  
お答えください

項目	質問内容(各項目より抜粋)
健康について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境はありますか。</li> <li>●日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。</li> <li>●お住まいの地域では、病院やクリニックが充実していると思いますか。</li> </ul>
子育て・教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長久手市は、安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思いますか。</li> <li>●お住まいの地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思いますか。</li> </ul>
自然やごみなどの環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お住まいの地域では、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど、豊かな自然環境がありますか。</li> <li>●お住まいの地域のまち並み（景観・風景）はきれいだと思いますか。</li> </ul>
人や地域のつながりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>●過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。</li> <li>●お住まいの地域には自宅以外の居場所がありますか。</li> <li>●お住まいの地域であなたは「たつせ」がありますか。</li> </ul>
防災・防犯について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。</li> <li>●お住まいの地域では、住民による登下校の見守り、夜間パトロールや防犯灯設置など、安全安心を守る取組が行なわれていますか。</li> </ul>
福祉について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お住まいの地域では、地域で困った人への助け合いはできていると思いますか。</li> <li>●高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができますか。</li> </ul>
文化・生涯学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長久手の歴史や伝統文化（「小牧・長久手の戦い」の地になったことや地域の昔話、棒の手等のお祭りなど）に関心がありますか。</li> <li>●お住まいの地域には自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化、行事など）がありますか。</li> </ul>
生活インフラ（交通や買い物生活など）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お住まいの地域は、出かける際の移動の安全が確保されていると思いますか。</li> <li>●お住まいの地域（長久手市及びその周辺地域）は、買い物や通院に便利ですか。</li> <li>●インターネット（ツイッターやフェイスブック、ライン等も含む）や電子メールをコミュニケーション手段として利用していますか。</li> </ul>
まちづくりにおける地域の役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あなたは、日頃地域社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。</li> <li>●地域にはさまざまな課題があると思われませんが、このような課題を解決していくためには、地域のコミュニティが中心になって進めていくことが今後ますます重要になると思いますか。</li> </ul>



動きは始める新しい仕組みにつなげる  
ことである。

モノサシづくりは、「1. 今のなが  
くての生活と幸せを測ろう！ 2. ア  
ンケート結果をみんなに伝えよう！  
3. 幸せのモノサシの仕組みづくり  
にチャレンジ」の3段階で構想されて  
いる。2013年10月より始動した調  
査隊は、「ながくて幸せ実感アンケ  
ー」の作成に始まり、調査票配布、結  
果分析、そして報告書作成を行った。

調査隊市民メンバーの大島幸子さん  
にとって特に印象深いのは、調査隊発  
足直後に行った市民インタビューだ。  
質問は「あなたの幸福度は何点？ そ  
の理由は？」「長久手市の幸福度は何  
点？ その理由は？」の2つ。「質問が、  
幸せというプラスの方向からなのごと  
てもよかったです。長久手のいいとこ  
ろがたくさんあがりました」。長久手  
に住んで15年ほど。退職した今、これ  
まで知らなかったこのまちをもっと知  
りたい、少しでも役立ちたいという思  
いから参加した大島さんにとって、市  
民の生の声を直接聞いたのも貴重な経  
験となったという。

計10回にわたるミーティングで、最  
も時間をかけたのは、アンケートの作  
成作業だ。事務局が作った案をもとに、  
質問内容、聞き方など、すべての文言  
を全員で精査していく。皆が納得でき  
る形になるまで話し合いを重ねた。「市  
民インタビューであがった声が、アン

## さらに協働を高めて

「ながくて幸せのモノサシづくり」の  
活動は、2015（平成27）年度より  
第2段階に進む。アンケート結果を市  
民にどう伝えていくか。「今度はさら  
に協働の度合いを高め、活動の取り組  
み方も市民の方々の意見がよりたくさ  
ん入る形にしたいと考えています」と  
事務局門前さん。

### 第2段階の

「ながくて幸  
せ  
実感広め隊」メ  
ンバーとして活  
動に参加するひ  
とりが、奥語真  
利奈さんだ。市  
東部、自然が残  
り、コミュニテ  
イも比較的強固  
な地域に生まれ育った奥語さんは、自  
分の住むまちをこよなく愛する大学生。  
「長久手市は四季を感じられ、ふとし  
たところに小さな幸せがあふれている  
のが魅力。それにたくさんの人が気づ  
けるといいと思います」  
第2段階の活動もホットなものにな  
りそうである。

### Question

長久手に住んで、  
どこに幸せを  
感じますか？



ながくて幸せ実感調査隊  
市役所メンバー

ながくて幸せ実感調査隊  
市民メンバー

ながくて幸せ実感調査隊  
市民メンバー

ながくて幸せ実感広め隊  
市民メンバー

高野至庸さん

Takano Yukinobu

「まちを自転車  
移動できるような、  
暮らしやすいまちです」

村田元夫さん

Murata Motoo

「犬の散歩をするの  
にいいなあ。と  
ちょっとあるけば  
川があるし、公園も  
あって、せせこましく  
ない」

大島幸子さん

Oshima Sachiko

「住宅地を少し離れ  
ると自然があるところ。  
子どもたちの楽し  
そうな笑顔を見ると  
こちらも幸せになり  
ます」

奥語真利奈さん

Yogo Marina

「自然が残っている  
だけでなく、最近  
はおしゃれなカ  
フェなどもできて、  
若い人にも自慢  
できます」

## モノサシづくりを通して 見えてきたもの

アンケートの回答から集計された長  
久手の幸せ感の点数は7・41である（全  
国6・41 ※平成23年度国民生活選  
好度調査より）。年齢別では30歳代  
が高く（7・79）、50歳代が低い（7・13）  
。また、子育て世代の幸せ感が高いとい  
う。

調査結果を分析し、長久手の幸せ感  
の特徴として挙げられたのは、「日頃  
から笑顔で心豊かな生活」をしている  
人と幸せ感の関係している。「地域活  
動をしている人の幸せ感が高く、関係  
があると思われる」などである。

調査を通して見えてきたのは、健  
康・環境など生活環境は充実している  
こと、一方で、地域活動への参加や「た

アンケートに入ったこともよかったです。  
市民の意見を発信できたと思います」

こうして完成したアンケートは、幸  
せを構成する5つの分野（1. 幸せ感  
について 2. 長久手市の住み心地に  
ついて 3. 暮らしや居住地域につい  
て 4. 自身について 5. ながくて  
幸せ実感について）に大別され、22項  
目の質問が盛り込まれた。質問の中心  
となった分野3から特に、住んでいる  
地域についてや、長久手市ならではの  
感じられる質問を中心に抜粋したのが  
Chartである。

「つせがある」の評点が低いことから、  
地域のつながりがやや心配という点が  
挙げられた。

地域とのつながりの弱さは、自分  
もあてはまるというのは市民メンバ  
ーの村田元夫さん。名古屋から移り住  
んで12年、取り組みを通して、これま  
でいかに長久手のまちのことを知らな  
かっただかに気づかされた。働き盛りの今  
はまだどっぷり地域に入っていくのは  
難しい面もあるが、そもそもこのプロ  
ジェクトに参加したのも「つながりを  
潜在的に求めていた部分があったかも  
しれない」と話し、行政主体ではなく  
市民と行政の協働で行われた調査隊  
は「非常にホットなチーム」だったと  
振り返る。

「この活動を通して、実際に市民の  
方々と顔を合わせて話すことの重要  
さを感じました」とは、調査隊の市職  
員メンバーの高野至庸さん。調査隊  
発足当時の部署は環境課。市民から  
寄せられる電話の大半が苦情という  
なかで、最初は「市民と協働」と聞  
いても「対立」をイメージしたが、  
実際には面白い意見を聞くことが  
できた。「この過程の経験は、これ  
からの通常の業務でも活かせると思  
います」



門前健さん。  
ながくて幸せ実感調査隊  
事務局担当者。



ミーティングでは行政・市民の隔てなく、  
活発な意見が交わされた。